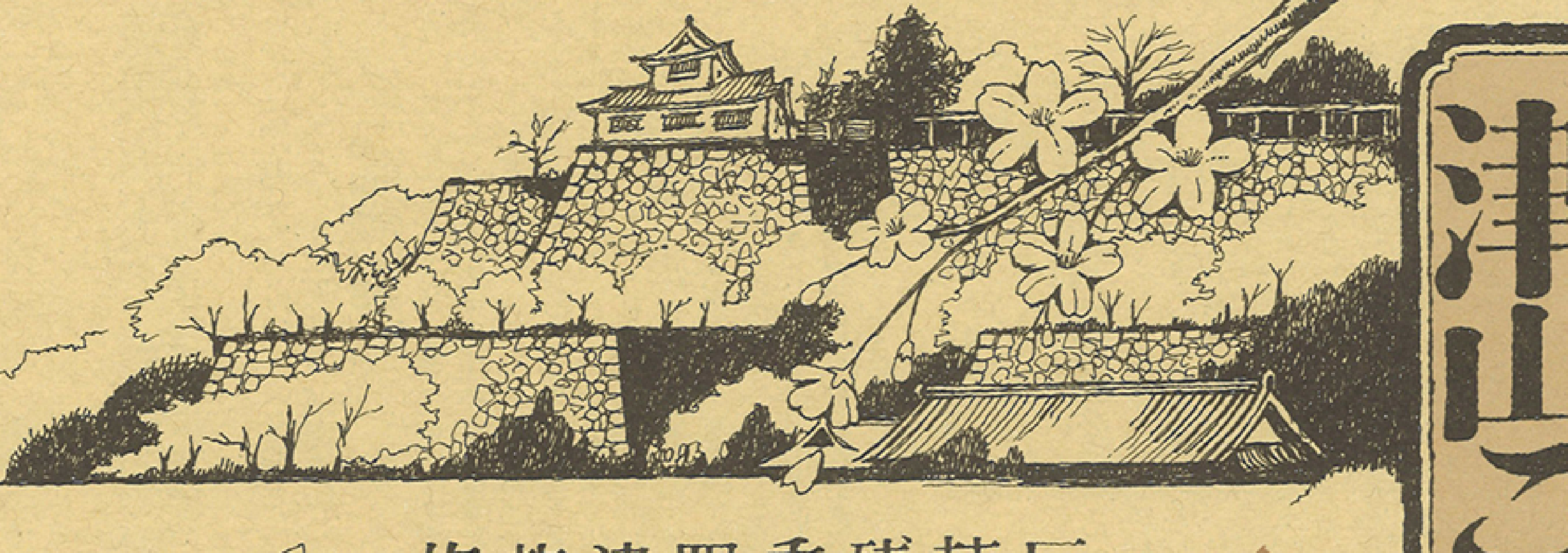
歴史と文化の城下町

津山ご城下めぐり旅

《城東界隈》



石垣に、桜吹雪の春の午後。
柿の実ひとつ、
残る晩秋の武家屋敷。
季節の中へ、自転車出せば、
四季折々に表情かえて、
津山は、おおらかに迎えてくれる。
旅の疲れをいやしてくれる
作州美人も、往き過ぎる。

桜、ジバザクラ、藤、紅葉……
巨城の跡の、町のオアシス。

津山城（鶴山公園）

《春は石垣の花吹雪》

津山城の桜は、ドッシリと古兵（つわもの）の石垣に、ヒラヒラと舞う花吹雪はのどかな春の訪れを、心ゆくまで楽しめる風情です。見頃は四月上旬、中旬。

《五月晴れの本丸あたりジバザクラの広場》
《木漏れ陽さわやかな藤棚、香りのトンネル》

新緑の季節の津山城跡は町を一望するだけに通り抜ける風の清々しさも最高。ジバザクラと藤が優しい笑顔で微笑みかけます。藤の見頃は五月上旬。ジバザクラの見頃は五月中旬。

蘇る備中櫓

備中櫓は城下からの景観も含め城内で天守に次ぐシンボル性の高い建造物であり内部は限りなく御殿建築であるというこの櫓を復元することにより、築城当時の津山城の建造物の様子を体感してもらうことが可能となります。

《踏みしめる落ち葉。紅葉の小径》

秋が深まりゆくと、深紅に色づく城跡のもみじ。まるで幻想の世界のような美しさが訪れます。多くの詩人、歌人の声も聞こえてくるようです。

《こころ引締まる城跡の雪景色》

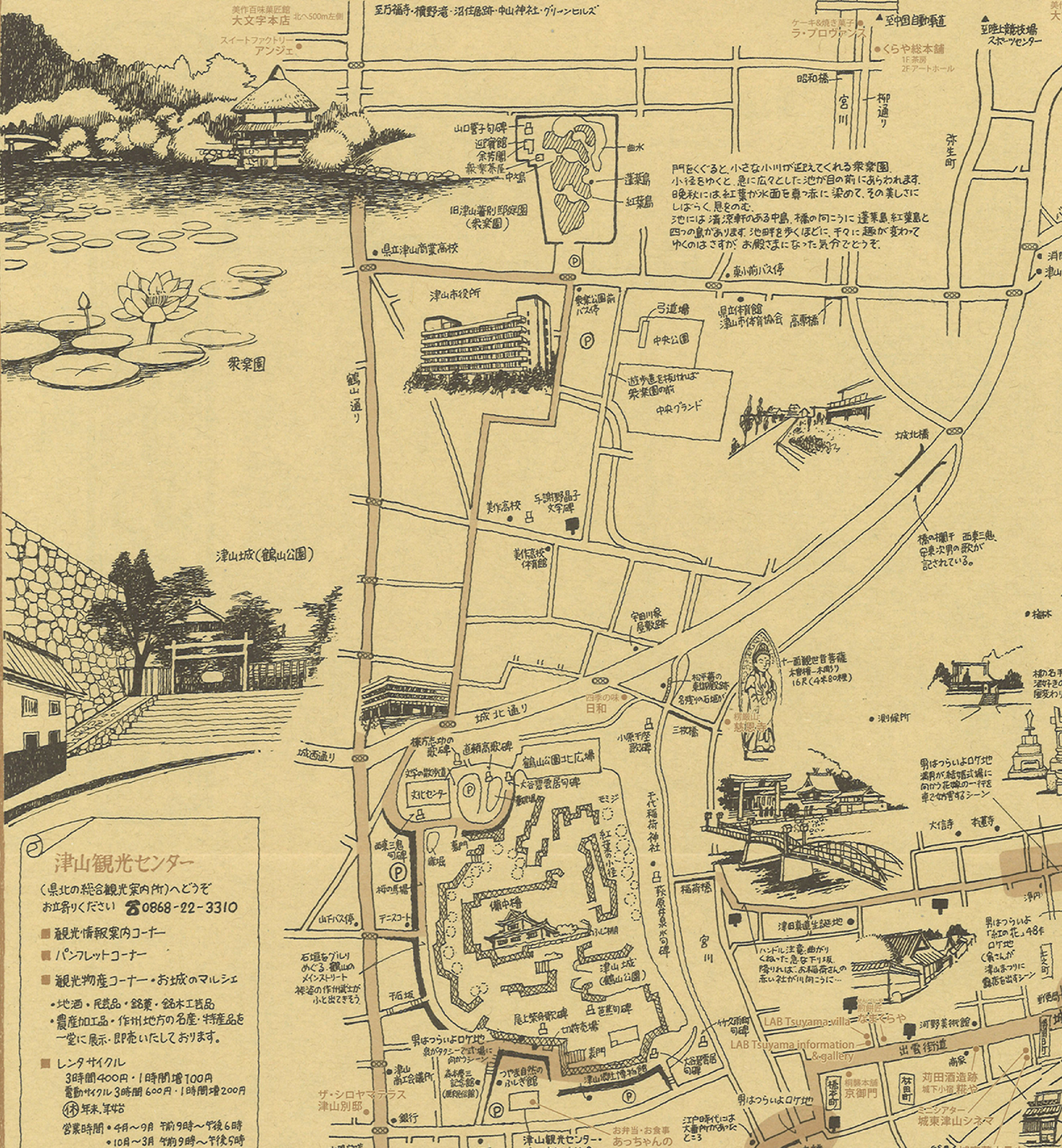
ピリピリと頬に冷気。津山の冬は白いものの舞う日もしばしば。城跡も時折、薄化粧の季節です。苔むした石垣に降り積む雪の白さは、なぜか訪れる人のこころに残ります。

《津山城跡で出逢う俳人達。歌人達》

生ぬくきにほひみたせて山ざくら
咲きさきはまれば雨よぶらしも

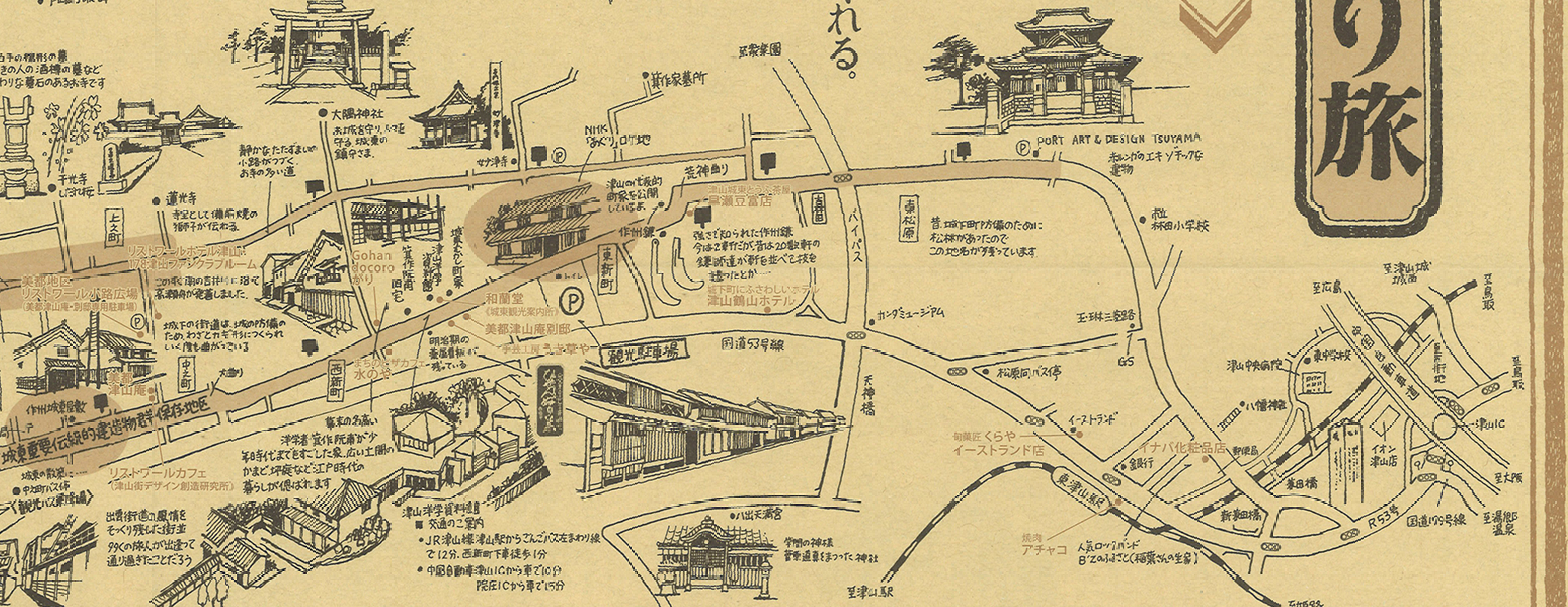
津山城跡をこよなく愛したふるさとの歌人、尾上柴舟。そして芭蕉。薬研堀のそばでは、曲水社を主宰した大谷碧雲居にも出逢います。

秋風や城という名に石枯るる



至万福寺・横野滝・沼住居跡・中山神社・グリーンヒルズ
美作百味菓匠館 大文字本店 北へ500m左側
スイートファクトリー アンジェ
ケーキ&焼き菓子 ラ・プロヴァンス
至中国自動車道
くらや総本舗 1F茶房 2Fアートホール
美作百味菓匠館 大文字高野店 東へ2,000m
至陸上競技場 スポーツセンター
鶴山小
至鳥取市へ 至津山I.C 至53号線
至53号線
バイパス
消防署
津山警察署
昭和橋
宮川
柳通り
弥生町
山口誓子句碑
迎賓館
余芳閣
衆楽茶屋
中ノ島
曲水
蓬莱島
紅葉島
旧津山藩別邸庭園（衆楽園）
衆楽園
県立津山商業高校
東小前バス停
衆楽公園前バス停
弓道場
県立体育館 津山市体育協会
高東橋
中央公園
津山市役所
鶴山通り
美作高校
与謝野晶子文学碑
美作高校体育館
津山城（鶴山公園）
城北通り
城西通り
四季の味 日和
鶴山公園北広場
大谷碧雲居句碑
文化センター

門をくぐると、小さな小川が迎えてくれる衆楽園。
小径をゆくと、急に広々とした池が目の前にあらわれます。
晩秋には紅葉が水面を真っ赤に染めて、その美しさにしばらく息をのむ。
池には清涼軒のある中島、橋の向こうに蓬莱島、紅葉島と四つの島があります。池畔を歩くほどに、千々に趣が変わってゆくのはさすが。お殿さまになった気分でどうぞ。



丹後山
梅林
芦田高子歌碑
十一面観世音菩薩 木曾檜一木彫り 16尺（4米80糎）
松平藩の東御殿跡 名残りの石垣が
楠名手の棺形の墓、酒好きの人の酒樽の墓など風変わりな墓石のあるお寺です
栴檀山 慈恩寺
測候所
小原千尋歌碑
三枚橋
千代稲荷神社
萩原井泉水句碑
男はつらいよロケ地 満男が結婚式場に向かう花嫁の一行を車で妨害するシーン
千光寺しだれ桜
大信寺
本蓮寺
大隅神社 お城を守り、人々を守る、城東の鎮守さま。
静かなたたずまいの小路がつづく、お寺の多い道
蓮光寺 寺宝として備前焼の獅子が伝わる。
上之町
リストワールホテル津山 178津山ファンクラブルーム
美都地区 リストワール小路広場（美都津山庵・別邸専用駐車場）
このすぐ南の吉井川に沿って高瀬舟が発着しました。
城下の街道は、城の防備のため、わざとカギ形につくられいく度も曲がっている
稲荷橋
津田真道生誕地
ハンドル注意、曲がりくねった急な下り坂。降りれば、お稲荷さんの赤い社が川向こうに…
男はつらいよ「紅の花」48作ロケ地（寅さんが津山まつりに露店を出すシーン
美都津山庵
作州城東屋敷
城東重要伝統的建造物群保存地区
中之町
大曲り
西新町
まちのなかカフェ 水のや
Gohan docoro がり
箕作阮甫旧宅
津山洋学資料館
城東むかし町家
和蘭堂《城東観光案内所》
美都津山庵別邸
手芸工房 うき草や
明治期の薬屋看板が残っている
幕末の名医、洋学者箕作阮甫が少年時代までをすごした家。広い土間のかまど、坪庭など江戸時代の暮らしが偲ばれます
リストワールカフェ（津山街デザイン創造研究所）
LAB Tsuyama villa
LAB Tsuyama information & gallery
銘菓匠 なまくらや
河野美術館
出雲街道
中之町バス停〈観光バス乗降場〉
出雲街道の風情をそっくり残した街並 多くの旅人が出逢って通り過ぎたことだろう
苅田酒造跡
城下小宿 糀や
ミニシアター 城東津山シネマ
城東蔵ホテル にし乃
男はつらいよロケ地
桜瀬町
林田町
材木町
大橋
城下町の東の出入口、大橋。
江戸時代には大番所があったところ
お弁当・お食事 あっちゃんの大きな木
津山観光センター・津山市観光協会
桐襲本舗 京御門
NHK「あぐり」ロケ地
セナ浄寺
荒神曲り
津山の代表的町家を公開しているよ
津山城東とうふ茶屋 早瀬豆富店
作州鎌
強さで知られた作州鎌 今は2軒だが、昔は20数軒の鎌鍛冶達が軒を並べて技を競ったとか……
東新町
城下町にふさわしいホテル 津山鶴山ホテル
観光駐車場
国道53号線
カンダミュージアム
バイパス
吉田
東松原
昔、城下町防備のために松林があったのでこの地名が残っています。
PORT ART & DESIGN TSUYAMA
赤レンガのエキゾチックな建物
林田小学校
玉琳三差路
GS
松原同バス停
天神橋
八出天満宮
学問の神様 菅原道真をまつった神社
イーストランド
旬菓匠 くらや イーストランド店
イナバ化粧品店
銀行
東津山駅
焼肉 アチャコ
人気ロックバンド B'zのふるさと（稲葉さんの生家）
至津山駅
至姫路
至津山城 城西
至広島
至鳥取
中国自動車道
至市街地
至鳥取
東中学校
津山中央病院
八幡神社
イオン津山店
津山IC
兼田橋
新兼田橋
R53号
国道179号線
至湯郷温泉
至大阪

津山洋学資料館
■交通のご案内
・JR津山線津山駅からごんごバス左まわり線で12分、西新町下車徒歩1分
・中国自動車道津山ICから車で10分
院庄ICから車で15分

津山観光センター

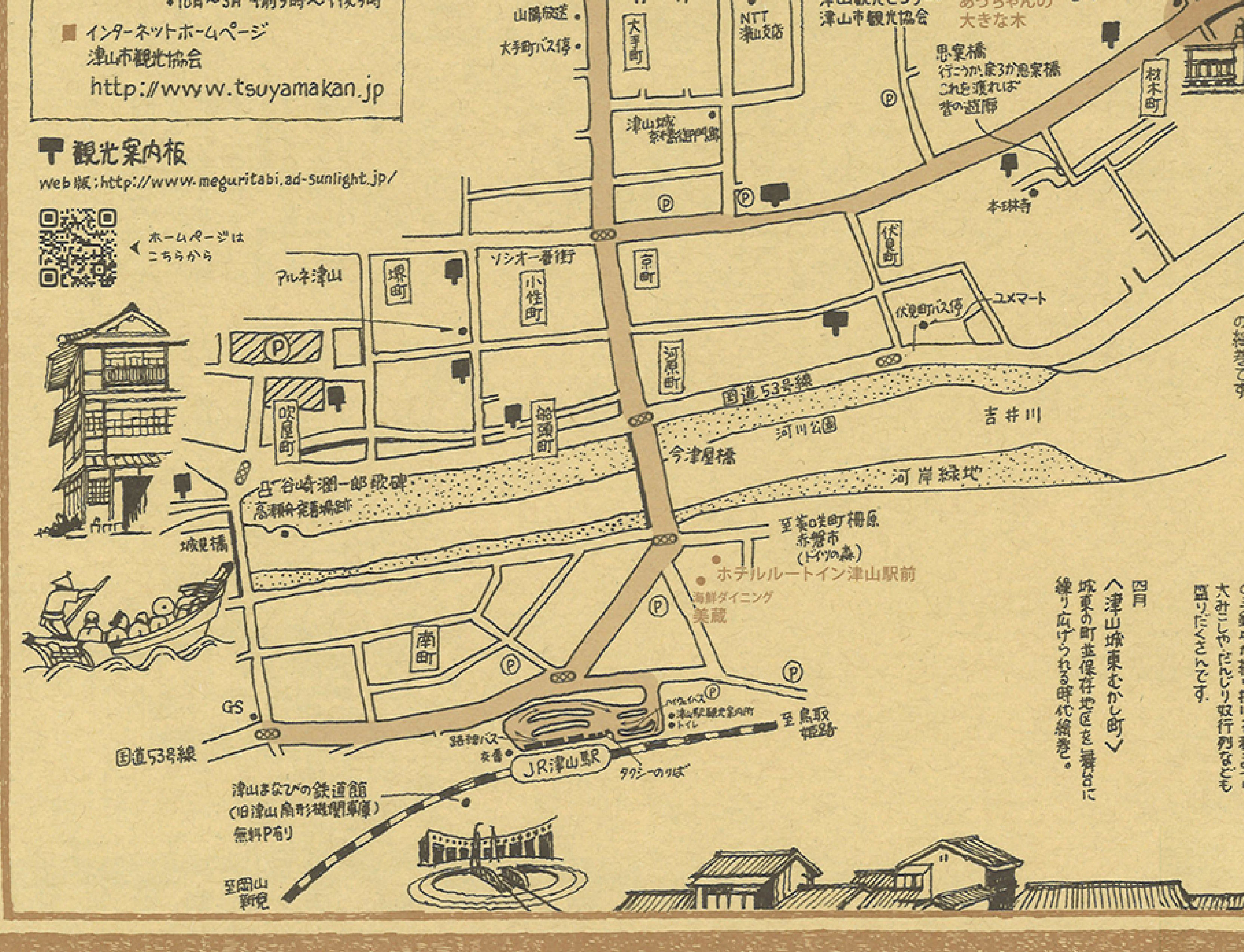
（県北の総合観光案内所）へどうぞ
お立寄りください　☎0868-22-3310

- 観光情報案内コーナー
- パンフレットコーナー
- 観光物産コーナー・お城のマルシェ
  - ・地酒・民芸品・銘菓・銘木工芸品
  - ・農産加工品・作州地方の名産・特産品を一堂に展示・即売いたしております。
- レンタサイクル
  3時間400円・1時間増100円
  電動サイクル 3時間600円・1時間増200円
  ㊡年末、年始
  営業時間・4月～9月 午前9時～午後6時
  ・10月～3月 午前9時～午後5時
- インターネットホームページ
  津山市観光協会
  http://www.tsuyamakan.jp

観光案内板

web版：http://www.meguritabi.ad-sunlight.jp/

ホームページはこちらから



ザ・シロヤマテラス 津山別邸
石垣をグルリめぐる、鶴山のメインストリート 裃姿の作州武士がふと出てきそう
津山商工会議所
銀行
山陽放送
大手町バス停
大手町
津山城東観光案内
思案橋 行こうか、戻ろか思案橋 これを渡れば昔の遊廓
アルネ津山
ソシオ一番街
堺町
小性町
京町
河原町
国道53号線
今津屋橋
吉井川
河川緑地
谷崎潤一郎疎開碑
城見橋
至宮川河畔 赤鳥居（トイレ有）
ホテルルートイン津山駅前
JR津山駅
津山まなびの鉄道館（旧津山扇形機関車庫）無料P有
至岡山
至鳥取

津山の春夏秋冬・年中行事

旧1月1日から3日 —
〈福力荒神社大祭〉
津山市福力・福力荒神社
まむし除けの神として有名。境内の砂を持ち帰り、家の付近にまいておくとまむしに会わないといわれています。

二月最終の金・土・日曜日 —
〈虚空蔵会式〉
津山市東田辺・万福寺
「十三まいり」といって、十三歳の子供が参拝すると福、徳、智の三つを授かるといわれている古来からの伝統行事です。

〈津山さくらまつり〉
津山城跡　鶴山公園を中心に津山さくらまつりが開催されます。さくらの名所 日本100選に選ばれた城跡は、ボンボリの灯りで夜桜も楽しめます。

四月二十九日
〈中山神社お田植祭〉
津山市一宮・中山神社
二十余人の歌人が、太鼓笛の調べに合せて面白おかしく鍬を振り二頭の獅子は頭を振り巧みに、苗を植えるさまを演じます。豊穣を祈る春の絵巻です。

八月第一土・日曜日 —
〈津山納涼ごんごまつり〉
津山市内・吉井川河川緑地
ごんご踊り、花火など多彩な夏の催しが繰りひろげられます。

十月第二日曜日 —
〈高田神社の獅子舞〉
津山市上横野・高田神社
秋まつりに獅子頭という二人の指揮者によって雌雄の獅子が神前で勇壮な闘いを演じます。

十月第三・四日曜日 —
〈津山まつり〉
津山市街地一帯
徳守神社、大隅神社、高野神社、津山の三鎮守が繰り拡げる秋まつり。大みこしや、だんじり巡行列なども盛りだくさんです。

四月
〈津山城東むかし町〉
城東の町並保存地区を舞台に繰り広げられる時代絵巻。

作州城東屋敷

町家の白い壁と火の見櫓がひときわ目をひきます。「だんじり展示館」に展示されている「だんじり」は市内にある県指定文化財20台の中の4台です。10月の津山まつりには市街地を賑やかに練り歩きます。

9:00～17:00（入館16:30まで）
〈入館無料〉
㊡水曜日　但し水曜日が祝祭日のときはその翌日

城東むかし町家〈旧梶村邸〉

時代とともに生きてきた
城下町津山の代表的町家

江戸時代に建てられた母屋から、昭和初期の蔵まで、各時代の生活様式に対応した造りが保存されています。城下町津山の歴史を体験できる所です。

9:00～17:00 入館は16:30まで
〈入場料〉無料
㊡火曜日　但し火曜日が祝祭日の時はその翌日

津山洋学資料館

津山は洋学（蘭学）の里
いにしえロマンの時・空間

津山を中心とする美作地域は、江戸時代後期から明治初期にかけて優れた洋学者を輩出したことで知られています。そうした洋学者たちの調査、研究機関として、国指定史跡箕作阮甫旧宅の隣地に、展示内容を一新して新館を建築移転。

・杉田玄白らの翻訳した「解体新書」、山脇東洋の腑分けの記録「蔵志」・宇田川玄随が翻訳刊行した日本最初の西洋内科学書「西説内科撰要」他ベストセラー医学書「医範提綱」、本格的植物学書「植物啓原」…など展示しております。

9:00～17:00（入館は16:30まで）
〈入場料〉大人300円　高・大学生・65歳以上200円
中学生以下 無料（30名以上団体割引）
㊡月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
（祝祭日の翌日 12月29日～1月3日）

津山郷土博物館

津山の生いたちを彷彿させる
資料 いっぱい！

昭和初期の石造り洋風建築で左右対称のこの建物は昭和五十七年まで市役所として。館の統一テーマは美作の歴史と文化です。弥生文化、戦国の時代から津山市の誕生まで模型、ジオラマで楽しみながら学習できます。もちろん、実物も豊富です。

9:00～17:00（入館は16:30まで）
〈入場料〉大人300円　高・大学生・65歳以上200円
中学生以下 無料（30名以上団体割引）
㊡年末・年始、月曜日　但し月曜日が祝日の時はその翌日

城下町・見どころコラム

新緑、紅葉、雪景色…それぞれに趣のある、山北の名園。

衆楽園

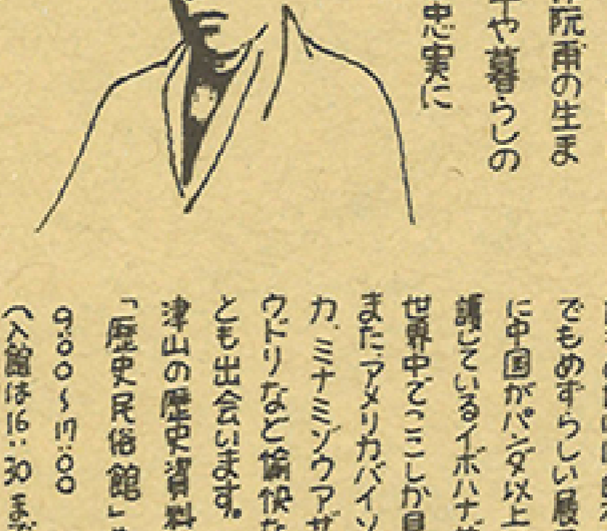
森家二代藩主長継公が明暦三年（1657）に京都から作庭師を招いて築造した回遊式の庭園。洗練された京風の作りは京都、仙洞御所の流れをくむといわれています。北には、中国山地を借景とし東南には上品な湖水の景観。このような眺めを余芳閣からとらえるようにし、中央や地方の要人を楽しませた長継公。豪放にして繊細な名君の人物が偲ばれる庭園です。ちなみに当時は現在の3倍もあったそうです。　入園無料。

箕作先生、お邪魔します。
江戸時代の暮らしの品々も
そのままに修復。

箕作阮甫旧宅

西新町のお医者さま。箕作先生のお宅。ここが開国の幕末日本で大活躍する洋学者、箕作阮甫の生まれ育った家です。その当時の町家の様子や暮らしのスタイルもうかがえるよう、あくまでも忠実に復元してあります。母屋、勝手、土蔵、井戸など内部は、昔がよみがえったような静けさです。

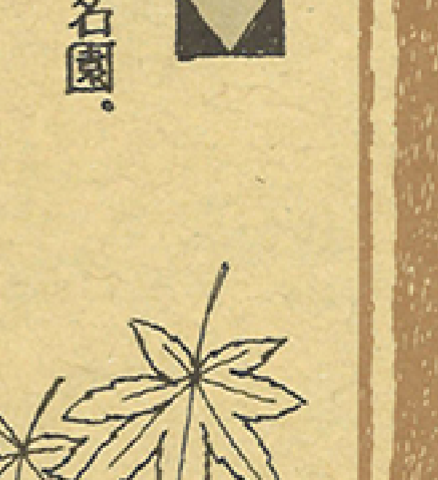
〈国指定史跡〉
9:30～16:00 無料
㊡月曜日（祝日の場合は火曜日）



なんと、二万二千点。
世界で、ここだけしか見られない、
剥製も。

つやま自然のふしぎ館

古代化石の部屋、生理衛生の部屋、貝類の部屋、世界動物生態の部屋など15の展示室。その1室が科学のとびら。見事に収集された貴重な標本が並びます。四十年近くの歳月をかけて集められたものだけに、日本はもちろん、世界でもめずらしい展示物が並びます。特に中国がパンダ以上に珍獣として保護しているイボハナザルの剥製は、世界中でここしか見られません。またアメリカバイソン、ヘラジカ、ミナミゾウアザラシ、アホウドリなど愉快な動物たちとも出会います。津山の歴史資料を収集した「歴史民俗館」もあります。

9:00～17:00
（入館は16:30まで）
〈入館料〉
自然のふしぎ館……大人800円　小中学生600円
幼児（4・5歳）400円
歴史民俗館……大人500円　小中学生300円
㊡不定休